

令和3年6月25日

学校法人磯野学園

国風第一幼稚園

## 令和2年度 自己評価並びに学校関係評価報告書

### 1. 本園の教育目標

- ①自分のことは自分でできること
- ②「おはよう」の挨拶ができること
- ③「ありがとう」と、すぐにお礼を言えること
- ④人の目を見て、しっかりと話を聞けること
- ⑤自分の思ったことを、言葉で伝えられること

集団生活を通して、個々の幼児の自主性を育て、豊かな心、よき生活習慣や人間関係に向かう意欲、態度を培う。環境を通して、頑丈な体を作り、人としての心「素直な心」「くじけない心」「優しい心」「思いやりのある心」を育てられるよう、「バランスのとれた保育と教育活動」を目指す。

### 2. 令和2年度重点的に取り組んだ目標・計画

令和元度末からコロナ禍の影響で、園生活のすべてにおいて、これまでとは違う新たな視点や考え方で、見直しをする必要が生じてきた。今までの習慣や常識にとらわれず、衛生面はもちろんのこと、行事、保育その他、園生活すべてを見直す良い機会ととらえ、子どもにとってのベストは何かを一番大切にして全職員で見直し、課題をみつけ工夫、改善をしていく。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	安全管理 (施設・設備・園児に対する安全、衛生に対する安全管理)	まず、職員が新型コロナウイルス感染症対策について、しっかりと理解をし、保護者に向けても必要のある度、くり返し手紙等で注意喚起を行った。 また、コロナ対策に必要な物、必要な事が何かを園長を中心にみんなで試行錯誤をくり返しながら、様々な対策を行った。 今後も、気の緩みのないよう取り組んでいきたい。
2	教育内容 (教育環境の構成)	1つ1つの行事や保育を、コロナ対策をきっかけに、今子どもにとって必要な事は何か、何をやるべきか、という点から見直し、実践し、反省し改善するという1年となり、新たな気づきが多くあった。ここで得た事を今後の保育に生かしていけるようにしていきたい。
3	教育内容 (教職員体制の充実)	バス乗車、預かり保育の当番や時短出勤の教員がいて、全員が揃うという事が難しい状況である。全員が共通の認識や理解、情報の共有がきちんとできるようにと、職員会議として長い時間をとることをしなくて良いように、

		<p>毎日の終礼の短時間での連絡・話し合いを大切にしている。終礼の情報は確実に教職員全員に届くよう、連絡を工夫している。また、行事、保育の振り返りや改善などは、まず学年単位の少人数の教員でじっくり話し合ってから、職員会議を行うようにし、みんなの考え、意見が反映しやすいようにしている。</p> <p>さらに、園内研修を行い、お互いの保育について話しあう機会を大切に、各自の教員が自分の保育の振り返りが出来るように努力をしている。</p> <p>教職員皆が力を合わせて保育を充実させ、職場環境もより良くなるよう、今後も努力していきたい。</p>
--	--	---

#### 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

コロナウイルスの流行という、今までにない状況が続いた1年となり、保育ばかりでなく、日常生活も変化せざるを得ない状況であった。

これまで、当たりまえのようにしてきた園生活の日常の一つひとつを、見直す必要があった。現在もその状況は続いている。

フリー教員が各学年に配置されていて、教員、職員の連携もスムーズにとれるようになってきているが、生活習慣や行事の見直し等で今以上に人手の必要が増すと思われるので、引き続き教職員の連携がより良くなるよう改善を進めていきたい。

行事についてもコロナ対策を中心に見直し、子どもにとって必要と考える行事は良い方法を考えて、できる範囲で行った。出来ないと判断した物は無理せず取りやめ、教室の様子などは、動画配信などを利用した。

また、行事の後などは、必ず学年ごとに振り返りの話し合いをして、それをフィードバックして次に生かすようにした。さらに、保護者のアンケートも行い、保護者の思いも知り参考にしている。より良い保育を教員、職員全員で目指していく態勢が少しずつ良い方向に向いているので、みんなで協力して今後もより良い職場環境を目指していきたい。

#### 5. 今後取り組む課題

令和2年度は新たな観点から大きな見直しをした。令和3年度はさらに園生活や行事を、もう一步踏み込んで、今までしていた事を当り前とせず、何故それをするのか？ そのねらいは何か？ 本当にそれは必要か？ ねらいと内容はあっているのか？ というように根本的な点から園生活を見直し改善していきたい。

学年主任が今まで以上にリーダーシップをとり、各学年の横のつながりを強くし、教員一人一人の考えや意見が生かせる環境を作り、適材、適所でみんなが力を発揮し成長できるようなより良い職場環境を目指していきたい。

	課題	具体的な取り組み
1	教育内容 (保育の計画)	令和2年度に見直した保育や行事をさらに見直す機会とし、幼児の発達を踏まえて、幼児にとって実りある、意義ある保育や行事となるように、その内容や実施の仕方について1つ1つ検討をしていく。 また、コロナ対策という点も十分考慮して見直す。
2	教育内容	多種多様な特性を持った教職員が互いの良さを認め合い、生かし合いな

	(教職員体制の充実)	がら、生き活きと教育活動に取り組める環境を目指して、学年主任が中心となり、教職員全員で協力して努力していく。
3	地域の幼児教育センターとしての役割 (預かり保育)	令和2年度まで、4時・5時までの預かり保育だったが、今年度より、6時までと延長された。 幼児の心身の負担を考慮し、また無理のない教職員の体制を整えて、就労している保護者が安心して子どもを預ける事ができるようにしていく。

## 6. 学校関係者の評価(令和2年度自己評価に基づく)

### ○ 学校関係者評価・意見

園庭には園児たちの笑い声や笑顔があふれていた。

コロナ渦の中、様々な行事が中止、延期となっていますが、幼児期の大切な一年のため少しでも例年に近い内容での開催を模索していると感じた。

新型コロナウイルスと共に園生活を送らなければならない1年でしたが、ただ単にすべての行事を中止するのではなく、対策をしっかりとつつ、その時々でどの形なら開催できるかを考えてくださり、その結果、クラスターなどが起きることもなく、子どもたちの笑顔やがんばっている姿を見ることができた。

中止になった行事についても、それで終わりではなく、先生方が動画を撮影し、それを配信してくださったので、別の形で子どもたちの幼稚園での様子を見ることができた。

コロナ渦以前に目標としていた美しく大きな声、大きな口、みんなで歌う、そして鍵盤ハーモニカの扱い、行事での発表、すべてにおいて条件がつき、コロナ感染対策仕様の教育現場となった。幼児教育の音楽は演奏技能だけでなく、リズム教育やリトミック的要素など教材はたくさんある。コロナ渦でできないことを数えるのではなく、できる事を見つける肯定的な考えで子どもたちに音楽を提供すべきだと思う。マスクはしているが耳栓はしていないので先生方の音楽表現がより効果的になるチャンスと考え、子どもの感性を育てる工夫をする必要がある。

バスキャッチによる園からの一斉配信メールでの情報提供が増えてきて、より安心して教育をお願いできると感じた。

先生方の負担が増えていると思いますが、コロナ対策や行事の変更点など様々なことについて考えてくださることにより、保護者としても、安心して預けることができ、また子どもたちも我慢ばかりでなく楽しく園生活を送れたと思う。

先生方の温かい笑顔や声掛け、子どもの挑戦を促してくださることによる日々の子どもの成長を感じている毎日でした。

今後もしばらくはこのような状況が続くと思われるので、引き続きコロナ対策をしっかりとつつ、子どもたちが安全に楽しく過ごせるようにしていただきたい。

### ○ 学校関係者評価 評価者

令和2年度母の会会長

令和3年度母の会会長

元名古屋文化学園保育専門学校教員、園内研修(ピアノ担当)